



「今」という時代の要請を取り入れ、
逆境を「創造を灯す光」に変える
「変革を担う、女性」を育成。



たかはしゆうこ
高橋裕子学長

1980年津田塾大学学芸学部卒業。89年カンザス大学大学院教育学研究科修了(Ph. D.)。スタンフォード大学フルブライト研究員などを経て、2016年より現職。

SUMMARY

新五千円券の肖像として注目を集める津田梅子⁽¹⁾により、1900年に創立された津田塾大学。日本初の女子留学生として6歳で渡米し、帰国後は日本女性の地位向上に生涯を捧げた梅子の「幅広い視野をもち、自立して社会に貢献するオールラウンドな女性を育成する」という建学の理念は、今日に至るまで脈々と受け継がれています。

AIによって変化する新しい社会を切り拓くため、2028年4月には「国際数理データサイエンス学部（仮称）」を開設する予定。ジェンダーギャップが叫ばれる日本にあって、125年超に及ぶ歴史ある学び舎の中で新たな道を開拓する「変革を担う、女性」を育成しています。

PICK UP 津田塾大学 学びのチャート

(1) 津田梅子

1864（元治元）年、津田仙の次女として生まれる。1871（明治4）年、岩倉使節団に伴われ、最年少の女子留学生として渡米。その後、再度の留学を経て1900（同33）年「女子英学塾」を創設。開学式で述べた「真の教育には、教師の資格と熱心と学生の研究心が大切である。学生の個性に応じた指導のためには少人数教育が望ましい。人間としてall-roundでなくてはならない」という言葉は津田塾大学の理念として受け継がれている。

1929（昭和4）年逝去。

(2) Tsuda Vision 2030

津田梅子の建学の精神に沿いながら、2030年に向け女子高等教育をさらに充実・発展させるために津田塾大学が進むべき方向を示したものの。「変革を担う、女性であること」という Motto とミッション、5つのビジョンからなる。

以下の学科からなる学芸学部と、1つの学科からなる総合政策学部で構成、いずれも学年が上がるにつれてより専門性の高い学びを追究します。学芸学部ではそれに続く大学院も設けられ、継続して研究を深めることが可能です。また、興味に応じて所属学部・学科以外の科目も履修でき、学びの幅を広げられることも特長のひとつです。					
学芸学部	1年次	2年次	3年次	4年次	大学院
英語英文学科 1学年募集人数 220人	基礎科目や セミナーなど	コース関連科目など	▶ 英語圏言語文化専攻 イギリス文学・文化コース／アメリカ文学・文化コース／ 英語学・言語学コース・英語教育コース ▶ 多文化コミュニケーション専攻 異文化コミュニケーションコース Japan Studies in Englishコース [科研プログラム] 翻訳プログラム [Faculty of Excellenceプログラム]		文学研究科 修士課程・後期博士課程
国際関係学科 1学年募集人数 200人	基礎科目や セミナーなど	コース関連科目や セミナーなど	▶ グローバル・国際関係コース ▶ 地域・文化コース ▶ 国際日本コース		国際関係学研究科 修士課程・後期博士課程
多文化・国際協力学科 1学年募集人数 70人	基礎科目や セミナーなど	▶ 多文化共生コース ▶ 国際協力学コース ▶ 国際ウェルネスコース			
数学科 1学年募集人数 45人	全分野共通の 基礎科目や セミナー	代数、幾何、解析、及び コンピュータ関連分野の 基礎科目やセミナーなど	代数、幾何、解析、及び 周辺・応用分野の 科目やセミナー	卒業研究	
情報科学科 1学年募集人数 45人	セミナーなど 基礎科目 プログラミング基礎	プロジェクト・セミナー 基礎科目・プログラミング発展・ 選択科目 ●多彩かつ先進的な科目群の履修 ●インターラクティブシステム	プロジェクト・セミナー 選択必修科目・選択科目 ●データサイエンス(演習付)	プロジェクト・ セミナー ●人工知能・機械学習 (演習付) など	理学研究科 修士課程・後期博士課程
総合政策学部	1年次	2年次	3年次	4年次	
総合政策学科 1学年募集人数 110人	基礎科目や セミナーなど	専門科目や セミナーなど	▶ パブリック・ポリシー(公共政策) ▶ エコミック・ポリシー(経済政策) ▶ ソーシャル・アーキテクチャ(社会情報) ▶ ヒューマン・ディベロップメント(人間社会)		

頁

に国際的な教養人となるためには、
広く世界を俯瞰することのできる
力を養うことが必要です。本学で
は、学生の多くが卒業までに短期・長期の海外
留学を経験しています。と高橋学長が語るよう
に、津田塾大学では協定校留学や海外語学研修
など多彩なプログラムを整備し、学生の海外活
動をサポートしています。

そのために必要なハイレベルで先進的な「英
語教育」も津田塾大学の大きな特長で、英語4
技能をバランスよく鍛え、アカデミックな論文が
書けるレベルにまで到達する「グローバルに
活躍できる女性」を育成しています。

学芸学部では各個人の能力を無理なく向上さ
せるために、英語の習熟度別クラス編成「PA
OE」を導入。学科ごとに独自のプログラムを
展開しています。一方、課題解決能力に焦点を
当てた総合政策学部の英語プログラムでは、交
渉力や提案力、調整力を重視し実践的なコミュ
ニケーション力を養っています。

また、学生一人ひとりが描く将来の選択肢は
無限に広がっています。高橋学長も「学生時代
に経験した大企業での就業経験が、社会の仕組
みや日本の状況を知る上で貴重な経験になりま
した」と述べています。そこで津田塾大学が重
視しているのが「学外での学び」です。

海外サマープログラムやインターンシップ、
ボランティアなど、キャンパスを越えて学ぶ学
生の活動を支援する制度は、津田塾の特長の一
つです。学年暦を4チーム制とし、必修科目が
ない第2チームと夏期休暇期間を活用すること
で、学生たちがキャンパス外での学修を体験し
やすい環境を整えています。

03

世界に羽ばたく力となる
英語教育と学外学修

真

に国際的な教養人となるためには
広く世界を俯瞰することのできる
力を養うことが必要です。本学で
は、学生の多くが卒業までに短期・長期の海外
留学を経験しています」と高橋学長が語るよう
に、津田塾大学では協定校留学や海外語学研修
など多彩なプログラムを整備し、学生の海外活
動をサポートしています。

そのために必要なハイレベルで先進的な「英語教育」も津田塾大学の大きな特長で、英語4技能をバランスよく鍛え、アカデミックな論文が書けるレベルにまで到達する「グローバルに活躍できる女性」を育成しています。

学芸学部では各個人の能力を無理なく向上させるために、英語の習熟度別クラス編成「PAOE」を導入。学科ごとに独自のプログラムを展開しています。一方、課題解決能力に焦点を当てた総合政策学部の英語プログラムでは、交渉力や提案力、調整力を重視し実践的なコミュニケーション力を養っています。

また、学生一人ひとりが描く将来の選択肢は無限に広がっています。高橋学長も「学生時代に経験した大企業での就業経験が、社会の仕組みや日本の状況を知る上で貴重な経験になりました」と述べています。そこで津田塾大学が重視しているのが、「学外での学び」です。

海外やマーブログラムやインターンシップボランティアなど、キャンパスを越えて学ぶ学生の活動を支援する制度は、津田塾の特長の一つです。学年暦を4チーム制とし、必修科目がない第2チームと夏期休暇期間を活用することで、学生たちがキャンパス外での学修を体験しやすい環境を整えています。



端的な情報技術を理解し、国際的な視野をもつてリーダーシップを発揮できる人材、Aの台頭によって大きく変化する社会を先導する女性を世に送り出していきたいと考えています」と高橋学長は説明します。

01

ジェンダーギャップの逆境に 存在感増す女子大学の意義

世

界経済フォーラムが昨年6月に発表した「ジェンダーギャップ報告書」2025年版によると、ジェンダーギャップ指数（男女平等の達成度合い）で日本は前年と同じく146カ国中118位と依然として低い評価だったことが分かりました。

大学を卒業すると、こうした社会の中に出て行かなくてはならない女性にとって重要なのは学生時代に「中心に据えられる経験」をすることだと高橋裕子学長は指摘します。

「女子入学では4年間、女性がセンターに置かれ、注目され、期待されて過します。自身に期待される経験を持つことで自信が芽生え、前進する力、インテグリティ（リーダーに求められる高潔さ）を養うことができるようになるのです。そうした力を育むことができるのが、女子大学の大きな意義だと考えます。」

本学では2017年の総合政策学部、2019年の多文化・国際協力学科の創設など、時代に合わせた学問分野を鋭意導入してきました。そして、2028年4月、さらなる変革として、国際数理データサイエンス学部（仮称）の開設を構想しています。数理・情報科学・データ

津 田塾大学の創設者であり、24年7月に発行された新五千円札の肖像でも注目される津田梅子は、女性の社会参画が今より遥かに困難だった1871（明治4）年、岩倉員視大使一行とともに6歳で渡米それから11年間、ワシントンDC郊外の町で勉学に励み、その後、再留学を経て1900（明治33）年、「女子英学塾」（津田塾大学の前身）を創設しました。そして生涯、女子高等教育のパイオニアとして、女性の社会的地位向上に果敢に挑戦したのです。

「本学には津田梅子の建学の精神が今日も脈々と受け継がれています。開学以来の少人数教育と先進的な英語教育、国際交流により、世界を舞台に活躍する優れた女性を多数輩出してきたのです」と高橋学長が語るように、津田塾大学の大きな魅力の一つが「女性リーダーを輩出してきた伝統」です。「女性として、初めて」という各界のパイオニアを輩出してきたのは、それだけガラスの天井を突き破るような力強いを培ってきた女性が多いということです。そのの勇氣を養っているのが、本学の『個を重んじる少人数教育』なのです。

津田塾大学は教員と学生の距離が近く、アットホームな雰囲気の中、多くの学生が共通して学ぶ講義を除き、専門性の高い学びを追究する少人数教育を展開しています。そこでの主役はあくまで学生。自ら問いを創り出す主体性が求められます。そのため、ディスカッションやプレゼンテーションなどインタラクティブ（双方向型）な学びを中心に据え、また1年次から必修のセミナーに所属するなど、主体的に学んでいます。

各界のパイオニアを輩出
「個」を重んじる少人数教育

津

田塾大学の創設者であり、24年7月に発行された新五千円札の肖像でも注目される津田梅子氏は、女性の社会

参画が今より遥かに困難だった1871（明治4）年、岩倉員視大使一行とともに6歳で渡米それから11年間で、ワシントンD.C.郊外の町で勉学に励み、その後、再留学を経て1900（明治33）年、「女子英学塾」（津田塾大学の前身）を創設しました。そして生涯、女子高等教育のパイオニアとして、女性の社会的地位向上に果敢に挑戦したのです。

「本学には津田梅子の建学の精神が今日も脈々と受け継がれています。開学以来の少人数教育と先進的な英語教育、国際交流により、世界を舞台に活躍する優れた女性を多数輩出してきたのです」と高橋学長が語るように、津田塾大学の大きな魅力の一つが「女性リーダーを輩出してきた伝統」です。「女性として、初めての」という各界のパイオニアを輩出してきたのは、それだけガラスの天井を突き破るような力を培ってきた女性が多いということです。その勇気を養っているのが、本学の「個を重んじる少人数教育」なのです」

津田塾大学は教員と学生の距離が近く、アットホームな雰囲気の中、多くの学生が共通して学ぶ講義を除き、専門性の高い学びを追究する若くは少数教育を展開しています。そこでの主役はあくまで学生。自ら問いを創り出す主体性が求められます。そのため、ディスカッションやブレゼンテーションなどインタラクティブ（双方回型）な学びを中心に据え、また1年次から必修のセミナーに所属するなど、主体的に学んでいます。

04

卓越したキャリア教育で『変革を担う女性』を育成

社

会や世界が激しく変化する時代では、短期間で身につけられるスキルはすぐに古びてしまいます。学部ではすべての土台となる、自分自身で考える力を養ってほしい」と語る高校校長。津田塾大学では、一人ひとりの適性を見据えた「キャリア支援」を、教職員はもちろん、進路を決めたた4年生や卒業生を含め、全校が一丸となって強力にサポートしています。きめ細かい個別相談や視野を広げる「キャリア教育科目」などにより、高い満足度を達成しています。

しか、**「女性のキャリアパスは4年間だけで終わるものではありません。留学の経験も得てほしいし、30代や40代になってからでも大学院で学び直しをしてほしい」**と高橋学長は語ります。2022年に『津田梅子 女子教育を拓く』を上梓するなど、津田梅子研究にも取り組む高橋学長はすべての女性にエールを送ります

「創立者・津田梅子は、**「女性の力」**を信じていました。この *Believe in Women* という言葉は梅子の指導教員であったプリンスマー大学のM・クアリ・トマス先生が学生たちを集めたときに語った言葉なのです。ジェンダーギャップの激しい社会で困難に直面することもあるかもしれませんが、それを変えていくことが本学の謳**「変革を担う女性」**の意味なのです。その精神を理解し、ぜひ本学と共に学びましょ。」



『津田梅子
—女子教育を拓く』
高橋裕子著
2022年9月21日発行
(岩波ジュニア新書)